

世界中を飛び回るビジネス・エグゼクティブだからこそ、機内での時間の過ごし方に一言ある。

今回は、国際弁護士として活躍する田中幹夫氏に、
フライト中のお気に入りの空間についてお聞きした。

ビジネスクラスを選ぶ、私の基準。

田中幹夫氏（弁護士）

法律事務所は大型化すると所内で専門分化が進みますので、私はクロスボーダー法務一本に特化しています。所属事務所が世界 60 ヶ国 170 都市をカバーし弁護士 11,000 名から成る大手法律事務所同士の世界的ネットワークに属していることもあり、涉外案件は実に多い。朝は北米、昼はアジア・ロシア、夕方からは欧州、深夜は再び北米、と地球を一巡する形で電話会議が終日続く日もあります。しかし重要な交渉では、フェイス・トゥー・フェイスの会議で、相手の反応を見つつ落とし所を探しながら一気呵成に書面化してしまうのが最も効率的です。特に国際取引の締結交渉や紛争の和解交渉において弁護士が最も顧客に貢献できる局面は、交渉済みの案件の文書化作業ではなく、交渉の場そのものです。したがって弁護士の使い方のうまいクライアントは重要な交渉に弁護士を同道させるので、私のように国際法務に特化していると必然的に海外出張が多く、欧米への出張が 3 回続いた月もこの半年に 2 度ありました。日常業務とは別に、所属弁護士会の国際交流委員会の副委員長とドイツ部会長も兼ねているので会務での海外出張もあります。今日の企業取引は迅速ですので、現地到着後会議室に直行の 1 泊 3 日とか、体力の限界を試すような日程が組まれることもあります。会議では弁護士はネゴシエーターという本来の役割に加え、案件によっては司会・通訳・起案係とひとり何役も兼ね、早朝から深夜までアドレナリン全開です。ですので、移動中にどれだけ休めるかは重要で、飛行機を選ぶ私の判断基準はシートにあります。

以下はすべて私の個人的見解です。ビジネスクラスシートのここ 10 年余の発達は目覚ましく、フルフラットは珍しくなくなりました。私の判断基準は、①床面と水平になるか、②プライバシーの確保、③隣客の足を跨がずに通路に出られるか、の 3 点です。かつては④PC 用電源の有無というチェック項目もありましたが、今日

PROFILE

田中幹夫氏【弁護士】

東京・丸の内への皇居に面した、弁護士数 110 名余を擁する日本最大手法律事務所のひとつ、シティユワ法律事務所 www.city-yuwa.com のパートナー（共同経営者）。一橋大学法学部と英国ケンブリッジ大学大学院で学び、ベルギーとドイツの大手法律事務所にも長く勤務して広く国際法務の経験を積む。ドイツの現地校・ギムナジウムに通った少年時代も合わせてドイツを中心に在欧 15 年、日英独の 3 ヶ国語で日常的に法律業務を行う、日本では極めて珍しいトライリンガル弁護士。ドイツ勤務中、数百年の歴史を持つ名門・マールブルク大学法学部で日本法の講師も兼務し、隔週で 1 コマ 3 時間をドイツ語で講義。2007 年のハイリゲンダム・サミットの際、ドイツ政府が G8 各国の法律家各 10 名をベルリンに招いて開催した「G8 法の支配に関する専門家会議」では日本人で唯一、共同議長を務めている。また、企業買収 (M&A) 等で北米への出張も多い。

では常識になりました。航空機内の限られたスペース内で座席数を確保しつつ、どう快適なシートを提供するか、昔では考えられない、各航空会社間の高度な知恵比べが雲煙遙かな成層圏で行われています。この二重の意味での「高度」な空中戦に、乗客のひとりとしてエールを贈りたいと思います。

さて、最近のビジネスクラスのシートには、人体の下半身が上半身より両腕の分だけ幅の狭い点に着目して、寝た状態を上から見ると頭と足が交互逆方向に配置された方式のものがあります。背を立てたアップライトポジションでは斜めに向かい合う形になる隣客とは、視線が合わないよう両席の間は体型に沿って湾曲したパーテーションで仕切られています。これが登場した時、キャビンを見れば、自分の頭の隣に隣客の足がある雑魚寝状態のはずなのに、まったくそうと感ぜさせないプライバシーの演出のうまさには唖ったものです。ただ、前述の①②は満点ですが、

③の問題は未解決でした。

この上広下狭という人間の体型を応用した別方式として、全員進行方向を向くが座席を千鳥配置にずらし、寝た姿勢では自分の上半身の隣にパーテーションを挟んで隣客の下半身が並ぶ面白い方式も出現しました。上記とは全く別の発想で、すべての座席を斜めに配置して隣席とは大きなパーテーションで仕切る座席配置方式もあります。上から見ると日本の織物で言う杉綾模様のようになりますが、欧米人には魚の骨の形に見えるようで herringbone seating といい、デルタ航空のビジネスエリートにもこのタイプがあります。この方式は①②に加え、すべての座席が通路に面しているのも③も解決、文句無しの満点回答です。ここまでくるとビジネスクラスのシートも行き着くところまで来た感があります。今後も快適なシートに出合えることを楽しみにしています。



FOR BUSINESS EXECUTIVES

編集部（注）：デルタ航空では一部機材に完全に水平になるフラットベッドシートを導入しています。現在すべての長距離路線機材に同シートの導入を進めており、2013年には完了の見込みです。企画・編集・制作：華報社